

主の降誕(夜半のミサ)の説教

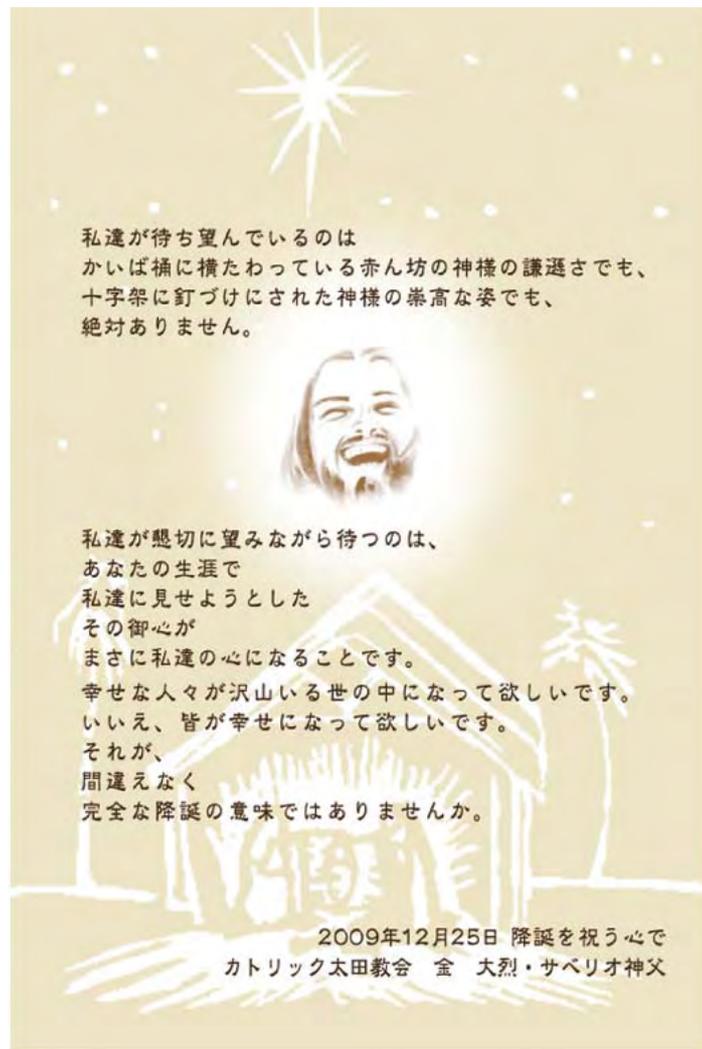
金 大烈 神父 2009年12月24日(木)

《幼子イエス様への贈り物 -赦しと和解-》

おめでとうございます。今日は、信者ではない方もミサに与っていると思いますが、とにかく感謝を致します。そして、心をこめて歓迎致します。

過ぎた待降節の4週間の中で、とても嬉しかったことがいくつかありました。その中で、一番やりがいを感じられ、嬉しかったことは、とても多くの方が赦しの秘跡を求められたことです。そして、涙を流しながら、本当にきれいな赦しの秘跡が行われる中で、聖霊の働きを感じました。ですから、今年2009年の降誕祭は、私たちには特に意味のある、本当に豊かな降誕祭になると確信しております。

この4週間、自分なりに、太田教会の共同体にとって降誕祭がどういう意味を持っているのか、よく黙想してみました。そして、その黙想が終わる頃感じたことを書いてみました。書いた物は、後で皆様にクリスマスカードとして、1家族に1枚ずつ差し上げます。今は、私がゆっくり読みます。日本語ですから、他の言葉を使う方は理解しにくいかもしれませんが、「良い話だ」と思いながら聞いていただければ、最高ではないかと思います。



さあ、このような気持ちで、皆様もこの降誕祭を迎えていらっしゃると思います。もちろん、準備が足りなかったと思われる方もいらっしゃるでしょう。中には、今までの降誕祭の中で、一番頑張って準備をしてきた、と思われる方もいらっしゃるでしょう。皆様のご判断にお任せします。

さあ、先週の日曜日、私は皆様に、降誕祭までもう何日も残っていない、とお話ししましたね。そして、イエス様が来られるのを待ちながら、赤ん坊イエス様のためのプレゼント、贈り物を準備しましょう、と言いましたよね。そして、それぞれの方が準備をなさったと思います。それがどういう心のプレゼントか、私には分かりません。ただ、イエス様だけをご存知だと思います。しかし今日は、私達の前にいらっしゃる赤ん坊イエス様のために、みんなで一緒に差し上げるプレゼントが欲しいと思います。そのプレゼントについて、説明させていただきます。

共に差し上げられる贈り物があるとすれば、それは、『赦しと和解』という贈り物です。私たちは、『赦し』を考えると、だいたい赦さなければならない立場のことばかり考えてしまいます。しかし、『赦し』には、二つの面があります。赦さなければならない立場もありますが、赦してもらう立場もあります。

皆様、イエス様がこの世の中に来られた一番大きい理由は、やはり『和解』です。では、『和解』とは何でしょうか。それは、人間が人間らしく互いに支えあいながら同じ方向を向いて歩むことです。

『赦し』というのは、ものすごく難しい言葉です。「赦さなければならない。けれどもなかなか赦さない。」ということばかり考えてしまうのが私達のほとんどではないでしょうか。しかし、全ての人間は赦してもらう立場にもなります。それなのに、すぐに忘れてしまうのです。

自分が赦していただいた体験のできた人は、相手のことも容易に赦せます。しかし、「赦していただかなかった」と思う人は、どうすればよいか分からないくらいの憎しみに満たされて、結局自分を殺すこととなります。それが日々の私達ではないでしょうか。

皆様の心のどこかにも、記憶にもなくなったような憎しみがあるかもしれません。そして自分が傷つけたことも忘れていたりかもしれません。しかし皆様、それらは必ずきちんと整理されなければなりません。整理する必要があります。そうでなければ私たちは進むことができません。霊的に、人間的に、社会的に、人間の係わりをもつために私たちは何よりも力を入れて人との係わりをよくしようと努力する必要があります。

皆様、憎んでいる人がいるでしょう。皆様が傷つけた人もいるでしょう。顔をあわせたくない人もいるでしょう。この教会の中にもいるでしょう。

イエス様に贈り物を差し上げましょう。「この一年間、何とかしてあなたの心を喜ばせます。そのために、できるだけ憎しみから解放され、私が赦しをいただかなければならない場合には、勇気を出して赦しをいただける方法を探します。逆に私が赦さなければならない場合には、神様が毎日私を赦して下さったように私もその人を赦せるように頑張ります。」という約束をしましょう。

もしこの決心が、私たちの中でできれば、この共同体は最高の共同体になると私は信じます。どうですか、約束できますか。では、約束する意味で大きい拍手をお願いします。

ありがとうございました。